



ひびだより No.12 2015.2.27

2月後半になり泥も目立つようになりましたが、今冬もたっぷり雪が降りました。寒い日でも新しいびびハウスで過ごすのはごくわずか。冬ならではの遊びが充実している毎月です。

1年間とさく大きく2つに分けることで「雪がある日」と「雪がない日」があります。雪がある日は寒い上に、スキーウェア、スノーブーツ、手袋のおかたで思うように動けず、不自由、不便、不快な状態であることに間違いありません。ただその状態を生み出す元になっている「雪」こそが、冬の遊びを豊かにしているのも事実です。かまくら(掘る型と積み上げる型)、オベリ台、テーブル、イス、うてまのお家、お風呂、食台、氷の鏡やヒストル、つらき氷の色水をつかったかき氷、雪だるま、崖でのお尻滑り、雪合戦、雪山づくり…。その幅の広さは、びびの森のあちこちにある子ども達のあそびの痕跡を見て頂ければ納得して頂けると思います。

「雪」と言っても、カサカサの雪、湿った雪、カチコチに固まった雪、シャリシャリの雪など、その姿、形は様々です。場所、天気、時間など様々な要因で雪が変化していくと子どもたちは遊びを通じて感じ、学んでいきます。同じように「氷」も多様であること、そして雪と氷に「水」を加えると更に大きな変化が起こること、アテヤマや工夫と重ねたあそびを楽しむことで、実体験として学習していくのです。ある時、礼くんの手袋を替えるようにスタッフからフリーズの手袋と荷物を取り出したところ、礼くんを見つめながら「この手袋は雪玉をつくにはいいの」と言ったことがありました。たしかにもフリーズの手袋は冷えた手をすぐに温めてくれるのです。雪あそびを思う存分するには不向き。そういったことも経験を重ねながら学んでいくのです。

長野県が進めている信州型自然保育検討事業の一環として、「信州型自然保育ガイド」というのを作成しています。そこにびびとしてこんな文章を寄せました。

聞いたこと、見たこと、触れてみたこと、読んだこと、体験したこと、失敗したこと…。子どもたちが、そういったことから学び、感じていることは、大人の想像をはるかに超えている。そしてその瞬間に発せられる子どもの感性の言葉、感覚の言葉は、とても新鮮な響きと深さを持っている。一緒に楽しんだり、笑ったり、すこしめし話してあげたりする仲間の存在は大きく、「夢中になれるもの」「仲間」「仲間」があれば、子どもたちの育ちははるかに伸びる。子どもたちが感じたり、考えたりしている時間を大切にしたい。その子どもたちを手助けする大人の言葉は、最小限に、丁寧に選んだ。森のようすをびびでは、このような思いを大切に保育をしています。

子どもとの関わりの中で、「できるようになる」「わかるようになる」ということが主目的になると、どうしてもペースは大人主導になってしまいかちです。子どもはペースと気持ちによりよいため、今年度残り少ないびびの月を過ごしていただきたいと思います。

真之介

＼おおきくみだより＼

今年度も残すところあと13日。びびの森で年間たぷり遊んだおおきくみだりの人たちが4月からまたひとつ大きくなります。次はおおくりさんだよ…くりさんになるんだ…一年生になるんだよ！とひとつ大きくなることを喜んで、そして楽しみにしています。

2/20～2/21に「おおくり冬のキャンプ」がありました。今年は自分たちのびびの森になり、新しいびびハウス、トイレ・キッチン棟も完成し、ますます森と仲良くなった一年でした。そして「おおくり冬のキャンプ」の企画が始まりました。夕飯作りと寝るのだけ バイブルのキャビンをお借りしてのキャンプとなりました。びびが終った夕飯もおおくりさんだけで森で遊んでいい日。びびハウスで思う存分過ごせる日。と目をキラキラさせていたおおくりさん。キャンプ前のおおきくみの日に何をしたいか、ご飯はどうするかと話し合いをしました。ご飯は自分たちで作りたい！とお料理への自信は大きいものでした。遊びは外遊びをいくつかと室内遊びをいくつか考えてきました。当日の朝、大きな荷物を抱えてやってきたおおくりさん。日中びびの人たちと過ごしている時も「ああ～今日が楽しみ～うふふ…」と喜びが顔に溢れ、いかに嬉しそうに過ごしていました。びびの人たちのお迎えが来ている中、大きなリュックを背負ってキャビンに向かう姿は自信に溢れていました。みんなが帰った後、びびハウスに戻ってきて「さて…何から遊ぼうか…」と相談が始まりました。「外で遊ぶか、中で遊ぶか、決めよう。」とみんなが話し始めました。(奏)「どちらで遊びたいか手を挙げて多数決にしよう。」すると外で遊びたい人は(平)一人。多数決だと室内遊びに決まります。しかしみんなが納得していません。4人が室内遊びに手を挙げた理由は「かるたがしたいから」「トランプがしたいから」です。(奏)は「スキーウェアを一回脱いだのにまた着るのが面倒だからなあ～」と外遊びが嫌なわけではありません。(平)ももちろん室内遊びのひとつひとつも楽しみにしています。そこで明日もあることを伝えました。すると「そ、か！やっぱり外遊びがいいかも！」「明日でもかるたか出来るじゃん。」と外遊びに手が挙がり始めました。最後に(奏)が苦笑いしながら「面倒くさいけどなあ～みんなと遊びたいしな…まあ、いっか。」と手を挙げ、全員一致で外で遊ぶことになりました。話し合いをしている中で発言する人は決まっていますがどうしようか…どちらがいいかな…と黙っている人も考えているのがわかります。大きな声で発言はないけれど手を挙げる事やうなづくことで話し合いに参加しているのです。みんなの意見がひとつになった時のみんなの表情が印象的でした。外へ出るとおおくりさんだけでしか出来ないことがたくさんある。ということで普段登らない崖へ出掛け、ちいさい人がいたら無理であろうと思われぬ歓道のような崖をくだたり登ったり…。汗びしょになりながら遊びました。そしてキャビンで大人も一泊にお料理です。メニューは話し合いで決まっていた「ハンバーグ・ご飯・スープ」です。1つの食卓をみんなが囲み、おしゃべりしながらみんなが作ったハンバーグの美味しいこと！そして男子・女子に分かれてお風呂へ出掛け、生活を共にしひとつの家族のように過ごすことが出来ました。外遊びで大変な崖もガンガン登っていき、おおくりだけの遊びの時間を満喫しお洗濯にも挑戦した(奏)。(奏)は遊びの時も食卓でもおしゃべりが止まらず大人も友だちもたくさん笑いました。楽しくて仕方のない(平)はお風呂屋さんの前でも「ああ～楽しみ～」と声をあげてしまい「レジー！他のお客さんもお風呂だよ。」と女子に注意を受け、口をおさえていました。(源)はお風呂へ向かう時、外へ出てみると満天の星空に「うわぁ～！すごいお星さま…」と感動の声。(世)は前日までの話し合いの最中、体がうきうきと動いていて楽しすぎて仕方のない様子が伺えました。「楽しく眠れるかわからない」とみんなからの声がありました。消灯してしばらくするとレジー…。あという間の就寝でした。二日目は予定通り室内遊びで盛り上がりました。身の周りのことはほとんど自分で出来てしまうおおくりさん。大人は少しの声かけと少しのお手伝いだけ。この二泊三日の時間、みんながまた自信をつけ、バガググッと大きくなったような気がします。最後にこんなに楽しい時間を過ごすことが出来て「ああ～楽しかった！」です。

(貝) 貝塚くん (奏) 奏くん (世) せつちゃん (源) 源香ちゃん (平) 平蔵くん

：美穂

— お知らせ —

・来年度 ひび継続の皆さまへ

このひびだよ!と一緒に生活調査表を同封いたしました。左ページ変更の書き換え・右ページ生活や健康についてお書き下さい。
3/6頃までに ひびに お返し頂きますようお願いいたします。(健康診断の記録も)

・卒園の皆さまへ

健康診断の記録を同封いたしました。ご家庭で納めて下さい。

・3月のえんこたいそう日 11日(水)

メインホールの改修工事が終わり 久々のえんこたいそうです。裸足になれるよう 靴類にご配慮下さい。

・ありがとうの会について

今年度 最後の日を 親子一緒に過ごします。この一年の歩み・育ちを みんなで振り返り いろいろな事への ありがとうを伝え合い 今年度を大切に締めくくりたいと思います。

日時	3月18日(水) A.M. 9:00~9:15 集合 9:20~ 開始 お昼頃解散
場所	ひびの森
持ちもの	親子分の お茶 松ぼっくり・くり qp は、アート作品を入れる袋

・巣立ちの集いについて

新一年生になる5人と そのご家族とスタッフの集いです。
いよいよ 5人を送り出す時が近づいてきました。仲間と育ち合ってきた 濃い日々は一人ひとりの 中にとけて 離れていく。これから 一人ひとりが 羽ばたいていく。最後の日。ご家族の方々と 5人の成長を喜び合い 新しい出発を お祝いしたいと思います。ご家族の 出席人数に 変更がある場合は、6日(金)までに お知らせ下さい。

日時	3月18日(水) P.M. 2:00 ~ 4:00
場所	バグナル メインホール
持ちもの	お持ち帰りいただけるものが いろいろありますので 大箱の袋など 水筒。

・お花さくす 野鳥の森遠足は、2015年度に 延期お事にしました。
3月には ひびの森で たっぷり 遊びたいと思います。

ひびの森の動物たち あいあいだ〜れだ! <2月 オコジョ>

少しづつ、日が長くなり、雪もだいぶとけて、森のあちこちで地面や落ち葉がみえてきました。日本に生息するホンドオコジョはイヌモが夏 背中が茶色、お腹は白、冬は 白い毛を除いて 真、白の 愛らしい 姿になります。ウサギなどもそうですが、動物の毛が白くなるのは、雪に同じく、敵の目から身を守るためです。しかし、これだけ雪がとけてしまうと、逆に 真、白なイヌは目立ってしまいかね...。あまり多くは居ませんが、小さい木の芽たちも雪に守られていたりするので、もう少し 白い毛の ままにしておきたいような気がします。

オコジョはその愛らしい 姿とは異なり、気性が荒く、ノズミなどを食べるイヌ、自分のイヌよりも大きいウサギやライチョウを食べることもあります。重さは非常にすばやく木登りや泳ぎなども得意です。おもむきままに ノズミやウサギを獲るとき、イヌをくねらせてダンスをして 催眠術をかけるといわれていますが、オコジョは実際に、これと似たことがあります。目撃者でみたことがあるのですが、それは不思議なダンスのようにウサギのすぐ目の前で飛んだりして、長い月同イヌをくねらせて、ほんの10センチほどしか離れていない オコジョのようすにみとれているのか、呆然としているのか、ウサギはジーンと固まってしまふ...。そのすきを見て、ウサギの首根っこをくねらせて見事捕獲してしまふ。

ヨーロッパでは、オコジョの毛皮を「アミン」といい王族の象徴とされています。長野県や群馬県では 山の神の使者であるという言い伝えがあるそうです。いずれにしても、山道でオコジョの姿をみると、オコジョのかわいらしい姿に「ほ〜」と 催眠術にかけられるように なってしまうのです...。

： 菜々丸

